

日安保殿御月ナチの夜通教ふれ聖の所陽城の
河に大車あては臺をよ上りて聖觀音と稱ふを
山極現地藏菩薩と云ふ燒けずして大車よ立ちぬ
ふと所を源をたつていふく延と清一廣い大車よ
たふりちまふく山極現の意を大師の所化地藏の
法を何のはれをも申しける今時聖觀音一尊は又
大にこふとくくは臺の所化を觀音臺の近より淨世
寺といふ寺ありといふはくくは以てく油田といふ
社領もくくく寺の權のみ埋まるといふ村をたふ

梅木氏庭石ありとくくくく西川村とけ村のふの
の輝くふく銀万並米万並埋まるといふ傳へけり
もくふくといふく柳の庭の近に機巧の
妙をいして本を刻みてを佛といふくまうて空を
清くあふくまうしてく後遺唐使の隨て大唐に
妙といふくといふく飛騨の近に異國は在りて韓志
和と姓名を改りてといふく大唐に於て本を彫り
てあふく鳥鵲寺の所を造りて鳥鉗と云ふみ或
を造りてといふくをたふす誠のふくふくも造